

# 書窓

No.457

2023.6

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561  
兵庫県揖保郡太子町鶴

1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

## Shoso

### 子どもの本だな 115

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### こぐまのたろ

きたむら えり さく・え (福音館書店)

こぐまのたろとうさぎのなーちゃんは、かごを持って木いちごをとりにいきました。枝の上に乗って夢中で木いちごをとっていたたろは、枝が折れてかごの上にしりもちをつきました。なーちゃんもすべってころび、2人はいちごだらけに。そのあと、またかごいっぱい木いちごをとって帰ると、たろのお母さんがケーキを焼いてくれました。ケーキの間に木いちごをはさみ、クリームをたっぷりかけて飾りをつけたケーキを、みんなでおなかいっぱい食べました。

ストーリーも絵も、素朴でほのぼのとしており、幸せな気持ちになる絵本です。同シリーズに、庭でデイジーの花を育てる『たろとなーちゃん』、風に飛ばされたえりまきを探す『たろのえりまき』があります。読んでもらえば3歳くらいから。(池田)



#### アルフレッド王の戦い

C・ウォルター・ホッジズ 作 神宮 輝夫 訳 (岩波書店)

イングランドが異教徒の侵略に苦しんでいた時代、片足のアルフレッドは、古い馬具を同名の人物に任せに行けという夢のお告げに従い、後の国王であるアルフレッド殿下に謁見します。多くの秘書を必要としていた殿下の勧めで、アルフレッドは読み書きを学び、殿下の即位後は、秘書のひとりとして戦地に赴きました。

ある時アルフレッドは、村人の移送中に敵襲を受け、人質として捕らえられます。敵の奇襲計画を知ったアルフレッドは隙をついて逃げ出しますが、王のもとにたどりついた時には、敵の攻撃が始まっていた。出陣前、アルフレッドは王から、どんな災厄も必ず克服できると理解できたのは、片足でも堂々と王の旗の下に立つお前のおかげだ、という言葉も賜り、共に戦場へ向かいました。

戦が絶えない激動の時代に人々を導いたアルフレッド王の様子が、片足のアルフレッドの視点で語られます。戦場の厳しさや、懸命に生きる人々の様子が緻密に描写され、手に汗握ります。続編に『アルフレッド王の勝利』があります。12歳くらいから。(光藤)

#### 6月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	<del>6</del>	7	8	9	10
11	12	<del>13</del>	14	15	16	17
18	19	<del>20</del>	21	22	23	24
25	26	<del>27</del>	28	29	<del>30</del>	

#### 7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	<del>4</del>	5	6	7	8
9	10	<del>11</del>	12	13	14	15
16	17	<del>18</del>	<del>19</del>	20	21	22
23	24	<del>25</del>	26	27	28	29
30	<del>31</del>					

▶ ×印は休館日

・祝日の振替休館  
7/19  
・館内整理日  
6/30、7/31

※閉館時は返却ポストをご利用ください。

▶ 開館時間：

10:00~18:00

(金曜日のみ 10:00~20:00)

『羊飼いの想い イギリス湖水地方のこれまでとこれから』 ジェイムズ・リーバンクス 著

濱野 大道 訳 早川書房 348頁 2023年3月刊 2,500円 (請求記号)645.4

前作『羊飼いの暮らし』には、イギリス湖水地方での羊飼いである著者の暮らしが描かれており、続編となる本作では、著者の少年時代から農耕牧畜がどう変わってきたかを語り、現代の問題を明らかにしている。

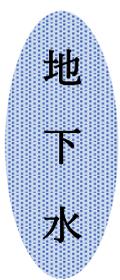
子どもころ、祖父の農場で過ごす時間は幸福で満たされていた。祖父は有能なファーマーで辛抱強く、自身の目、耳、鼻、感覚を使う人だった。ハリネズミが足を横切ると「あれは、家に洗濯物を持ってかえる途中のテギイーおばさんだったにちがいない」などと言うユーモアも持ち合わせていた。

祖父が亡くなった後、オーストラリアの大規模農場で働き、土地の広大さと大型耕作機、何万匹もの羊、何百頭の牛の群れの飼育を目の当たりにし自分たちの農場との違いに驚いた。郷愁にかられ帰国。自身の農場の美しさに気づき、そこに暮らす自らもその一部であることを悟る。一方、これまで通りの羊飼いとして生き残ることに不安を感じた。多くのファーマーが工業化農業を取り入れ人工肥料と殺虫剤を撒き、新しい機械を使い、家畜は隔離され牧草地に放たれることもなくなった。野鳥もハタネズミも見かけなくなり、ファーマーたちは工業化農業以前には持っていた知識や技術を忘れてしまっている。しかし今、人々は過去の農耕牧畜の重要さに気づき始めた。土壌の健康のための連作の回避、家畜の放牧、石垣の整備、害虫駆除のため鳥の巣を守るなど、それらの技術を使っていた時代に戻るには時間と信念が必要だ。著者はわずかに残る共同体の人たちと研究者の力や知恵も取り入れながら努力を続けている。今、著者の農場には野鳥やハタネズミが戻り始めている。

一度手放してしまえば、それが大切なものと気づいても、その時には担い手がない。同様のことがいろいろな分野で起こっている。著者のように今は経済的に困難でも、地道にやっけていく人たちが現れることを願うばかりだ。(西村)

6月	7月	6・7月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
8日	6日			<b>福地(三反長)</b> 地域内 14:30~ 14:50	<b>米田</b> 公会堂 15:00~ 15:20	<b>竹広南</b> 公民館 15:30~ 15:50
15日	13日			<b>原池団地</b> 公民館 15:00~ 15:20	<b>山田</b> 掲示板前 15:30~ 15:50	<b>原</b> 地区交流 センター 16:00~16:20
22日	20日	<b>広坂</b> 公民館 10:30~ 10:50	<b>上太田</b> 公民館 11:00~ 11:20	<b>塚森</b> 地域内 15:00~ 15:20	<b>太子 ニュータウン</b> 公民館 15:30~ 15:50	<b>吉福</b> 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >  
毎週土曜日に  
「おはなしの時間」  
を開いています。  
↓ 4歳~小学2年生  
11:00~11:30  
↓ 小学3年生~中学3年生  
11:30~12:00  
6月のおはなしは、「ラプンツェル」「金いろとさかのオンドリ」「こびとのくれたチーズ」などを予定しています。詳しくは、館内掲示または図書館HPをご覧ください。



梅雨の季節がやってきた。雨と紙は相性が悪い。もちろん本も。本を濡らした場合、すぐに拭けば間に合うこともあるが、濡れ具合や時間の経過などで修理不可能になることが多い。濡れ跡が残り、紙もべこべこになつて元には戻らないからだ。

水濡れ以外にも、本の破損修理は様々ある。よくあるページの破れなどは修理可能の場合が多い。繋ぎ合わせて読めそうなら修理専用のテープで直せる。ところが、それをセロハンテープなどで直してしまうと修理不可能になってしまう。セロハンテープなどはすぐに劣化し、粘着剤などで逆に本を傷めてしまうからだ。先月、図書館の本棚で紹介した『書籍修繕という仕事』(ジェヨン著 原書房)の中で、本当にその通り!と頷きながら読んだところがあった。「もしそれが大事な本なら絶対にセロハンテープを使わないこと。:テープは本の敵だ!」もし本が破れたりページが取れたりしたら、自分で直さずそのまま図書館に持ってきてほしい。

水も本の敵だ。雨のときは、本をビニール袋などに入れていただけのとありがたい。また、持ち運びのときは、飲み物と本と一緒にしないことをお勧めする。これだけでも防水対策になるので、よろしくお願ひします。(池之上)